



## 親の所得格差と 子どもの学力格差について

石橋 達八 議員  
(無党派)

**問**

平成21年12月に国で策定した「森林・林業再生プラン」では、10年後の木材自給率の50%以上を目指している。法整備に加え、世界的な木材需要の伸び、\*資源ナシヨナリズムの高まり、そして環境問題という流れから国産材への期待が高まっている。新年度予算に計上されている林業大学の設置調査費の内容、遠野林業の将来像を見据えた総体的計画は。

**答**

遠野市林業大学校構想については、「森林・林業再生プラン」で林業の基礎知識を習得した森林管理の専門家(フォレスト)の人材育成の重要性が提起されたことを受け、構想検討委員会を設置した。現在、情報収集、調査をしており、秋までに構想をまとめ、次のステップに進みたい。また、公共建築物等の木材利用促進法の整備は当市の林業・木材・住宅産業の振興に期待が持てる。総体

**問**

親の所得格差によって、子どもの学力格差や教育格差に影響を与えているとされる。塾などに通わせたいが経済的理由でそれができない家庭に経済的支援ができないか。また、親の収入に関係なく定年退職した方や、教員OＢらによる学習を希望する子どもたちにボランティアで学習の機会を作れないものか。対応策を示してほしい。

**答**

大都会で、親の所得で子どもの学力に影響が出ている傾向は、調査としてあるよう

だが当市では当てはまるかどうかは何とも申し上げられない。ただし、全体的に子どもたちに一定の学力を保証するのは、教育の使命であることは十分理解している。経済的理由で塾に通わせたくても通わせられない家庭に

対する経済的支援は考えていない。学力向上のためのボランティアによる学習機会については、今後の検討課題とする。



地域の宝である子どもたち(ふるさと発見探偵団のキャンプ風景)

\*1主として開発途上の資源保有諸国による、天然資源に対する支配権拡大の主張と、それを実現するための諸活動のことをいう。